【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和 8年 6月 1日

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
東日本デザイン＆コンピュータ専門学校	昭和61年3月10日	小林　一英	〒379-2184 群馬県前橋市小屋原町1098-1 （電話）027-267-1171
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人山崎学園	昭和42年3月31日	遠山　巍	〒379-2184 群馬県前橋市小屋原町1145-1 （電話）027-267-7945

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
商業実務	商業実務専門課程	コンピュータ学科（3DCGデザイナーコース）	平成17年文部科学大臣告示第177号	なし

学科の目的	学校教育法に基づき、教養教育と専門教育が調和した幅広い教育を行い、情報通信技術分野に関する知識技術を習得させ、もって産業界並びに社会公共に貢献できる人材を育成することを目的とする。
認定年月日	平成26年3月31日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	62		62			単位

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160人	29人（61人の内数）	0人	5人	10人	15人

学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価	■成績表:　有 ■成績評価の基準・方法 学期末試験、実習の成果、出席状況等を総合的に勘案
長期休み	■学年始め:4月1日～4月8日 ■夏　季:7月25日～8月23日 ■冬　季:12月24日～1月7日 ■学 年 末:3月7日～3月31日	卒業・進級条件	校長が成績評価の基準に従い認定する。
学修支援等	■クラス担任制:　有 ■個別相談・指導等の対応 担任及び学生指導委員による対応	課外活動	■課外活動の種類 学生会組織、部愛好会、インターンシップ等 ■サークル活動:　有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和7年度卒業生） 株式会社アールフォース・エンターテインメント、株式会社P.A.WORKS、株式会社メディア22世紀、共立印刷株式会社　等 ■就職指導内容 担任および就職部による面接練習等 ■卒業者数　:　17　人 ■就職希望者数　:　17　人 ■就職者数　:　16　人 ■就職率　:　94.1　% ■卒業者に占める就職者の割合　:　94.1　% ■その他 （令和　7 年度卒業者に関する令和8年5月1日 時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和7年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報） ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄

資格・検定名	種	受験者数	合格者数
日商PC検定	③	42	29
CG-ARTS　CG・MM検定	③	24	5
経済産業省情報処理技術者試験	③	23	10

中途退学の現状	■中途退学者（学科全体）　6 名　■中退率　7.3 % 令和7年4月1日時点において、在学者82名（令和7年4月1日入学者を含む） 令和8年3月31日時点において、在学者76名（令和8年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 病気療養、進路変更、経済的理由　等 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任及び退学防止委員会による対応
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度　:　有 特待制度 ■専門実践教育訓練給付　:　無
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価　:　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）
当該学科のホームページURL	http://www.yamasaki.ac.jp/design-com/

（留意事項）

1. 公表年月日（※1）
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況（※2）
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。
※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。
（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果（※3）
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

本校の目的に応じて、情報通信業界の要請を十分に生かしつつ職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するため、教育課程の編成において企業等が委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むものとする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

細則で「教育課程編成委員会」を学内に設置することを定め、学校組織図に明記し、位置づけを明確にいている。教育課程編成委員会は、意見を教務部に提出し、教務部において教育課程を編成し、校長及び理事会の承認をへて最終決定している。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和 8年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
小林　一英	東日本デザイン＆コンピュータ専門学校　校長	令和 8年4月1日　～ 令和 9年3月31日（1年）	
間仁田　篤	東日本デザイン＆コンピュータ専門学校　教務部長（コンピュータ学科）	〃	
前田　利雄	一般社団法人　群馬県情報サービス産業協会　理事	〃	①
山﨑　雅也	フリーランス（自営）	〃	③
桑原　章人	東日本デザイン＆コンピュータ専門学校　学科長（コンピュータ学科）	〃	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（開催日時）
年間開催数：2回（毎年5月、11月）

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「教育課程編成委員会」において各委員より出された意見を取り入れ、教務部において具体的な科目設定、授業内容の検討を行いカリキュラムを作成する。例えば、最先端のIoT技術について企業内で行われている取り組みをネットワークやプログラミングの授業に反映させている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等の要請を踏まえ、専攻分野に関わる職業において即戦力とし活躍でき人材育成目指す。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

専攻分野に関わる企業等において豊富な実務経験を有し、業界の動向に知見を有する講師を選任し、実習・演習等の内容及び学修成果の達成度評価について打ち合わせを行い担当教員と連携しながら授業運営を行う。

（3）具体的な連携の例

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
コンセプトデザイン Ⅰ～Ⅳ	キャラクターの発想や設定、デフォルメとリアルな描画方法、表現や動きの描画方法を身に付ける。	都プランニング

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

細則ならびに研修規程に基づき、教育効果の向上のため、企業等が開催する研修会等へ参加をし、知識、技術、技能などの修得に勤め、担当業務等の遂行に当たり質の高い授業運営ができるようにしている。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

全教職員を対象に、関連業界団体・企業が主催する実務に関する知識・技術・技能についての下記講習会等に参加し専攻分野毎に実務研修を行った。
・令和7年7月24日　CEDEC主催「アストロボット」テンポよく遊べる3Dレベルデザイン」
・令和7年8月 8日　株式会社インフォテック・サーブ主催「専門学校教員向け 技術向上研修(システム開発演習)」
・令和7年8月21日　CEDEC主催「ゲーム品質向上のためのユーザーレビューとポイント」

②指導力の修得・向上のための研修等

全教職員を対象に、外部実務家講師による生徒に対する指導力等の修得・向上のための研修会
・令和8年3月19日　講師：本校学校長　小林一英　対象：全教職員　内容：「カスタマーハラスメントの対応について」

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

全教職員を対象に、関連業界団体・企業が主催する実務に関する知識・技術・技能についての研修会等に参加し専攻分野毎に実務研修を行う。

②指導力の修得・向上のための研修等

全教職員を対象に、指導力の修得・向上を目指し各方面の有識者を講師として招聘し講習会を開催する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

教育効果の向上のため、企業等が開催する研修会等へ参加をし、知識、技術、技能などの修得に勤め、担当業務等の遂行に当たり質の高い授業運営ができるようにする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	理念・目的・育成人材像・学校の特色等
（2）学校運営	事業計画・人事や賃金での処遇に関する制度等
（3）教育活動	教育目標・育成人材像と業界ニーズ・資格取得体制等
（4）学修成果	就職率の向上・卒業生在校生の社会的活躍と評価等
（5）学生支援	就職指導に関する体制・課外活動に対する支援体制等
（6）教育環境	施設設備の整備状況等
（7）学生の受入れ募集	適正な学生募集活動・教育成果の適正な報告
（8）財務	中長期における財務基盤の安定・財務に関する適正な会計監査
（9）法令等の遵守	法令、設置基準等の遵守と運営・個人情報の保護に関する対策
（10）社会貢献・地域貢献	
（11）国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

「教員研修を充実し、教職員のモチベーション向上をさらに推進してほしい」との意見があり、教職員研修委員会において、教職員全員参加の集合研修や分野別に各教職員の実務研修の充実を図っている。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和 8年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
黒石　和秀	東日本デザイン＆コンピュータ専門学校（ビジネス2校）父母の会会長	令和 8年4月1日　～ 令和 9年3月31日（1年）	PTA
前田　利雄	一般社団法人　群馬県情報サービス産業協会理事	〃	企業委員
廣田 毅文	有限会社　富士メディアサービス　代表取締役	〃	企業委員
根岸 誠	フジコー株式会社　代表取締役	〃	企業委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ　・　広報誌等の刊行物）　・　令和 8年7月末
URL:http://www.yamasaki.ac.jp/design-com/14.html

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

社会に対する説明責任を果たし、社会全体からの信頼および企業等との連携や協力を得る。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	校長名・所在地・連絡先等・特徴・沿革、教育目標・経営方針・教育指導計画・諸活動に関する計画
（2）各学科等の教育	入学者選抜の方針・方法、定員数・入学者数・在学者数・カリキュラム等進級・卒業の要件等、取得を目指す資格、合格を目指す資格等、・資格取得、検定試験合格等の実績、卒業者数、卒業後の進路
（3）教職員	教職員数、教職員の組織・専門性
（4）キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、実習・実技への取り組み状況、就職支援への取り組み状況
（5）様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況、課外活動（サークル活動、学生会活動）等の状況
（6）学生の生活支援	学生支援への取り組み状況
（7）学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱、活用できる就学支援措置の内容
（8）学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書など
（9）学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

URL:http://www.yamasaki.ac.jp/design-com/14.html

授業科目等の概要

（商業実務専門課程コンピュータ学科３ＤＣＧデザイナーコース）令和 8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	コースミーティング	LHR的な位置づけの授業科目。時期に応じて下記を実施 ・就職活動　・各種検定試験対策 ・各種コンペ対策　・学生生活指導	1年次・前後期 2年次・前後期	120	4		○		○		○		
○			ビジネスマナー	顧客満足とコミュニケーション能力を向上させる手段を学ぶ。ビジネス文書、統計資料の作成や、仕事を進める上で知っておくとよい法律等も学ぶ。	1年次・後期	30	1		○		○			○	
		○	キャリアデザイン	就職活動に必要な知識を学び、コースミーティングと連動して準備を行う、 ・筆記適性試験対策　等	1年次・後期	30	1		○		○		○		
○			３Ｄモデリング	Mayaの基本的な操作からはじめ、３D空間上に物体の形状を作る学習をする。簡単な形状をからだんだんと複雑な形状をモデリングできるようにする。	1年次・前後期 2年次・前後期	480	16		○		○			○	
○			３Ｄアニメーション	3Dオブジェクトのキーフレームアニメーション方法、物理シミュレーション方法、3Dキャラクターアニメーションの適切なポーズやタイミングを学ぶ。	1年次・前後期 2年次・前後期	480	16		○		○		○		
○			コンセプトデザイン	キャラクタや背景デザインの発想・調査・分析の方法とイラストレーション制作で視覚化する手法を学ぶ。	1年次・前後期 2年次・前後期	240	8		○		○			○	○
○			デッサン	石膏像や静物などのモチーフを写生することで、基本的な描写力を身に付ける。	1前後・2前後	240	8		○		○			○	
○			デジタル映像制作	実写映像やCG映像の合成、アニメーション、エフェクトなどの映像編集を行い、ポストプロダクション工程を学ぶ。	1年次・前後期	120	4		○		○			○	
		○	色彩学	色のはたらきや表色方法、色彩心理、色彩調和、色彩効果を学び、色彩の実践的活用能力を身に付ける。	1年次・前後期	60	2	○			○			○	
合計				9科目	1800単位時間（　60単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は、1800時間以上かつ60単位以上を満たすものとする。 また、必修選択科目は指定されている科目数を必ず履修する必要がある。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（商業実務専門課程コンピュータ学科３ＤＣＧデザイナーコース）令和 8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Word	Microsoft Word基本操作と基礎的な文書作成を学ぶ。	1年次・前期	30	1		○		○			○	
○			Excel	Microsoft Excelの基本操作と基礎的な表計算・グラフ作成を学ぶ。	1年次・後期	30	1		○		○			○	
○			造形基礎演習	平面構成や立体構成を学び、イメージ力や構成力及び多角的なもののとらえ方を身に付ける。	2年次・前後期	120	4		○		○		○		
○			ＶＦＸ	水・煙・炎・布などのリアルな動きを、流体・物理シミュレーション機能を使い映像化する手法を学ぶ。	2年次・前後期	120	4		○		○		○		
合計				6科目	300単位時間（　10単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は、1800時間以上かつ60単位以上を満たすものとする。 また、必修選択科目は指定されている科目数を必ず履修する必要がある。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

（別紙様式4）　　東日本デザイン＆コンピュータ専門学校　コンピュータ学科　情報システムコース

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和 8年 6月 1日

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
東日本デザイン＆コンピュータ専門学校	昭和61年3月10日	小林　一英	〒379-2184 群馬県前橋市小屋原町1098-1 （電話）027-267-1171
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人山崎学園	昭和42年3月31日	遠山　巍	〒379-2184 群馬県前橋市小屋原町1145-1 （電話）027-267-7945

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
商業実務	商業実務専門課程	コンピュータ学科（ゲームプログラマーコース）	平成17年文部科学大臣告示第177号	なし

学科の目的	学校教育法に基づき、教養教育と専門教育が調和した幅広い教育を行い、情報通信技術分野に関する知識技術を習得させ、もって産業界並びに社会公共に貢献できる人材を育成することを目的とする。
認定年月日	平成26年3月31日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	62		62			単位

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160人	6人（61人の内数）	0人	5人	10人	15人

学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価	■成績表:　有 ■成績評価の基準・方法 学期末試験、実習の成果、出席状況等を総合的に勘案
長期休み	■学年始め:4月1日～4月8日 ■夏　季:7月25日～8月23日 ■冬　季:12月24日～1月7日 ■学 年 末:3月7日～3月31日	卒業・進級条件	校長が成績評価の基準に従い認定する。
学修支援等	■クラス担任制:　有 ■個別相談・指導等の対応 担任及び学生指導委員による対応	課外活動	■課外活動の種類 学生会組織、部愛好会、インターンシップ等 ■サークル活動:　有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和7年度卒業生） 株式会社フリースタイル、株式会社アルプスビジネスサービス、株式会社スタッフサービスエンジニアリング　等 ■就職指導内容 担任および就職部による面接練習等 ■卒業者数　:　5　人 ■就職希望者数　:　5　人 ■就職者数　:　5　人 ■就職率　:　100.0　% ■卒業者に占める就職者の割合 :　100.0　% ■その他 （令和　7 年度卒業者に関する 令和8年5月1日 時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和7年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報） 日商PC検定 ③ 42 29 CG-ARTS CG・MM検定 ③ 24 15 経済産業省情報処理技術者試験 ③ 23 10 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄
中途退学の現状	■中途退学者（学科全体）　6 名　■中退率　7.3 % 令和7年4月1日時点において、在学者82名（令和7年4月1日入学者を含む） 令和8年3月31日時点において、在学者76名（令和8年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 病気療養、進路変更、経済的理由　等 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任及び退学防止委員会による対応		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度　:　有 特待制度 ■専門実践教育訓練給付　:　無		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価　:　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）		
当該学科のホームページURL	http://www.yamasaki.ac.jp/design-com/		

（留意事項）

1. 公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

本校の目的に応じて、情報通信業界の要請を十分に生かしつつ職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するため、教育課程の編成において企業等が委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むものとする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

細則で「教育課程編成委員会」を学内に設置することを定め、学校組織図に明記し、位置づけを明確にいている。教育課程編成委員会は、意見を教務部に提出し、教務部において教育課程を編成し、校長及び理事会の承認をへて最終決定している。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和 8年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
小林　一英	東日本デザイン＆コンピュータ専門学校　校長	令和 8年4月1日　～ 令和 9年3月31日（1年）	
間仁田　篤	東日本デザイン＆コンピュータ専門学校　教務部長（コンピュータ学科）	〃	
前田　利雄	一般社団法人　群馬県情報サービス産業協会　理事	〃	①
山﨑　雅也	フリーランス（自営）	〃	③
桑原　章人	東日本デザイン＆コンピュータ専門学校　学科長（コンピュータ学科）	〃	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（開催日時）
年間開催数：2回（毎年5月、11月）

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「教育課程編成委員会」において各委員より出された意見を取り入れ、教務部において具体的な科目設定、授業内容の検討を行いカリキュラムを作成する。例えば、最先端のIoT技術について企業内で行われている取り組みをネットワークやプログラミングの授業に反映させている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等の要請を踏まえ、専攻分野に関わる職業において即戦力とし活躍でき人材育成目指す。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

専攻分野に関わる企業等において豊富な実務経験を有し、業界の動向に知見を有する講師を選任し、実習・演習等の内容及び学修成果の達成度評価について打ち合わせを行い担当教員と連携しながら授業運営を行う。

（3）具体的な連携の例

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
Web技術Ⅰ・Ⅱ	効率的かつ効果的なWebページの制作を行う ・HTMLとCSS　・JavaScript ・PHPプログラミング　・XML	フジコー株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

細則ならびに研修規程に基づき、教育効果の向上のため、企業等が開催する研修会等へ参加をし、知識、技術、技能などの修得に勤め、担当業務等の遂行に当たり質の高い授業運営ができるようにしている。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

全教職員を対象に、関連業界団体・企業が主催する実務に関する知識・技術・技能についての下記講習会等に参加し専攻分野毎に実務研修を行った。
・令和7年7月24日　CEDEC主催「アストロボット」テンポよく遊べる3Dレベルデザイン」
・令和7年8月 8日　株式会社インフォテック・サーブ主催「専門学校教員向け 技術向上研修(システム開発演習)」
・令和7年8月21日　CEDEC主催「ゲーム品質向上のためのユーザーレビューとポイント」

②指導力の修得・向上のための研修等

全教職員を対象に、外部実務家講師による生徒に対する指導力等の修得・向上のための研修会
・令和8年3月19日　講師：本校学校長　小林一英　対象：全教職員　内容：「カスタマーハラスメントの対応について」

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

全教職員を対象に、関連業界団体・企業が主催する実務に関する知識・技術・技能についての研修会等に参加し専攻分野毎に実務研修を行う。

②指導力の修得・向上のための研修等

全教職員を対象に、指導力の修得・向上を目指し各方面の有識者を講師として招聘し講習会を開催する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

教育効果の向上のため、企業等が開催する研修会等へ参加をし、知識、技術、技能などの修得に勤め、担当業務等の遂行に当たり質の高い授業運営ができるようにする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	理念・目的・育成人材像・学校の特色等
（2）学校運営	事業計画・人事や賃金での処遇に関する制度等
（3）教育活動	教育目標・育成人材像と業界ニーズ・資格取得体制等
（4）学修成果	就職率の向上・卒業生在校生の社会的活躍と評価等
（5）学生支援	就職指導に関する体制・課外活動に対する支援体制等
（6）教育環境	施設設備の整備状況等
（7）学生の受入れ募集	適正な学生募集活動・教育成果の適正な報告
（8）財務	中長期における財務基盤の安定・財務に関する適正な会計監査
（9）法令等の遵守	法令、設置基準等の遵守と運営・個人情報の保護に関する対策
（10）社会貢献・地域貢献	
（11）国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

「教員研修を充実し、教職員のモチベーション向上をさらに推進してほしい」との意見があり、教職員研修委員会において、教職員全員参加の集合研修や分野別に各教職員の実務研修の充実を図っている。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和 8年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
黒石　和秀	東日本デザイン＆コンピュータ専門学校（ビジネス2校）父母の会会長	令和 8年4月1日　～ 令和 9年3月31日（1年）	PTA
前田　利雄	一般社団法人　群馬県情報サービス産業協会理事	〃	企業委員
廣田 毅文	有限会社　富士メディアサービス　代表取締役	〃	企業委員
根岸 誠	フジコー株式会社　代表取締役	〃	企業委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ　・　広報誌等の刊行物）　・　令和 8年7月末
URL:http://www.yamasaki.ac.jp/design-com/14.html

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

社会に対する説明責任を果たし、社会全体からの信頼および企業等との連携や協力を得る。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	校長名・所在地・連絡先等・特徴・沿革、教育目標・経営方針・教育指導計画・諸活動に関する計画
（2）各学科等の教育	入学者選抜の方針・方法、定員数・入学者数・在学者数・カリキュラム等進級・卒業の要件等、取得を目指す資格、合格を目指す資格等、・資格取得、検定試験合格等の実績、卒業者数、卒業後の進路
（3）教職員	教職員数、教職員の組織・専門性
（4）キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、実習・実技への取り組み状況、就職支援への取り組み状況
（5）様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況、課外活動（サークル活動、学生会活動）等の状況
（6）学生の生活支援	学生支援への取り組み状況
（7）学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱、活用できる就学支援措置の内容
（8）学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書など
（9）学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

URL:http://www.yamasaki.ac.jp/design-com/14.html

授業科目等の概要

（商業実務専門課程コンピュータ学科ゲームプログラマーコース）令和 8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネスマナー	顧客満足とコミュニケーション能力を向上させる手段を学ぶ。ビジネス文書、統計資料の作成や、仕事を進める上で知っておくとよい法律等も学ぶ。	1年次・前期	30	1		○		○			○	
		○	コースミーティング	LHR的な位置づけの授業科目。時期に応じて下記を実施 ・就職活動　・各種検定試験対策 ・各種コンペ対策　・学生生活指導	1年次・前後期 2年次・前後期	120	4		○		○		○		
		○	キャリアデザイン	就職活動に必要な知識を学び、コースミーティングと連動して準備を行う。 ・筆記適性試験対策　等	1年次・後期	30	1		○		○		○		
○			C言語	プログラミング言語C言語を学ぶ。 文法や一般的なルール、コーディングにおける基本的な注意点についても併せて触れる。	1年次・前後期	60	2		○		○		○		
○			C#	プログラミング言語であるC#を基礎から学習する。.NETを用いたWindowsフォームアプリケーションのプログラミングを行う。	1年次・前後期	60	2		○		○		○		
○			ゲームエンジン	ゲーム開発エンジンを使用したゲーム制作の授業。基本的な操作方法から始め、スマートフォン向けのゲームを制作する。	1年次・前後期 2年次・前期	150	5		○		○		○		
○			コンピュータシステム	コンピュータの仕組みや基礎理論を学び、経済産業省情報処理技術者試験(ITパスポート、基本情報技術者)の合格を目指す	1年次・前期	60	2		○		○		○		
○			情報と経営	コンピュータに関わる法律や戦略、マネジメント等を学び、済産業省情報処理技術者試験(ITパスポート、基本情報技術者)の合格を目指す	1年次・前期	60	2		○		○			○	
○			Excel	Microsoft Excelの基本的な操作方法から始め、実践的な表計算につなげる。	1年次・前期	30	1		○		○			○	
合計				9科目	600単位時間（　20単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は、1800時間以上かつ60単位以上を満たすものとする。 また、必修選択科目は指定されている科目数を必ず履修する必要がある。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（商業実務専門課程コンピュータ学科ゲームプログラマーコース）令和 8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ゲーム、e-sports研究	ゲーム業界を多角的に見つめ、幅広く豊富な知識を学んで就活に活かすことを目的とする。得た知識をもとに制作作業にあたることで力や知識の定着を行う。	1年次・前後期 2年次・前期	180	6		○		○			○	
○			ゲームデザイン	UIやプレイ方法、難易度などを考察し、ゲームの「面白さ」とは何か、という観点からゲームの設計を行う。	1年次・前期	60	2		○		○		○		
	○		一般常識	社会人として、そして就職試験(SPI)合格のために必要な一般常識を身につける。義務教育終了程度の問題をしっかりと回答できるようにする。	1年次・前後期 2年次・前期	90	3		○		○		○		
	○		検定試験対策	各種検定試験の対策を行う。試験時期にあわせ様々な検定に対応する。問題研究、答練を行う。	1年次・前期	30	1		○		○		○		
	○		Windows入門	Windowsの基本操作を学ぶ ・Winsdowsストア　・ファイル管理 ・メール送受信　・セキュリティ	1年次・前期	30	1		○		○			○	
○			C++	プログラミング言語C++を用いて、オブジェクト指向プログラミングを学ぶ。ポインター等、C言語の内容についても理解を深める。	1年次・後期	120	4		○		○		○		
○			Web技術	効率的かつ効果的なWebページの制作を行う ・HTML/CSS　・JavaScript ・PHP　・XML	1年次・前期 2年次・前後期	180	6		○		○			○	○
○			Excel試験対策	日商PC検定(表計算)合格に向けた対策授業。	1年次・後期	30	1		○		○			○	
○			ゲームロジック	コンピューターが動かすキャラクターの動き方や思考ルーチン、シミュレーションについて学習し、プログラミングによって実践する。	1年次・後期	30	1		○		○		○		
合計				9科目	750単位時間（　25単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は、1800時間以上かつ60単位以上を満たすものとする。 また、必修選択科目は指定されている科目数を必ず履修する必要がある。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（商業実務専門課程コンピュータ学科ゲームプログラマーコース）令和 8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			データベース	リレーショナルデータベースに関する基礎的な知識から、より発展的なデータベース操作言語まで学習します。	1年次・後期	30	1		○		○		○		
○			デバッグ技術	実際に制作したゲームやそのシステムについてのデバッグを行うにあたり必要となる手法や技術を学ぶ。	1年次・後期	30	1		○		○		○		
○			モデリング	３ＤＣＧのキャラクターや物体のモデリングの基礎を学ぶ。実際に複数のモデルを生成し、プログラミングの授業とも連携して、それらの動作の制御も行う。	1年次・後期	30	1		○		○			○	
○			Java	プログラミング言語Javaを基礎から学び、オブジェクト指向やネットワークプログラミングなど、Javaによるプログラミングの理解・応用を目指す。	2年次・前後期	120	4		○		○		○		
○			モバイルプログラミング	パーソナルコンピューター上でのプログラミングとの違いを意識しつつ、スマートフォン／タブレット向けのプログラミングを行う。	2年次・前期	60	2		○		○		○		
	○		Word	Microsoft Wordの基本的な操作方法から始め、実践的な文書作成につなげる。	2年次・前期	30	1		○		○			○	
○			キャラクターデザイン	キャラクターの発想や設定、デフォルメとリアルな描画方法、表現や動きの描画方法を身に付ける。	2年次・前期	30	1		○		○			○	
○			情報科学	ゲーム制作に必要な行列・ベクトル等の数学的知識や、おもに力学系の物理的知識を習得する。またそれらを実際にプログラミングによって確認する。	2年次・前期	60	2		○		○		○		
	○		ゲームシナリオ	雰囲気／世界観／登場キャラクター等をバランス良く組み合わせ、魅力的なゲームとなるよう、ストーリー構成を行う。	2年次・前期	30	1		○		○		○		
合計				9科目	420単位時間（　14単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は、1800時間以上かつ60単位以上を満たすものとする。 また、必修選択科目は指定されている科目数を必ず履修する必要がある。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（商業実務専門課程コンピュータ学科ゲームプログラマーコース）令和 8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Linux	サーバー向けOSのLinux（CentOS）を用い、運用・保守の基礎を学ぶ。	2年次・前期	30	1		○		○		○		
○			卒業制作	各自でテーマを選定し、実務でのプロジェクトの流れを意識しながら、プログラム開発やシステム構築を行う。また、その成果を発表する。	2年次・後期	240	8		○		○		○		
○			ネットワーク	コンピューターネットワークの基礎知識から実践的操作までを幅広く学ぶ。また、操作や設定を実際に行い、理解を深める。	1年次・前期	30	1		○		○			○	
	○		AI入門	コンピュータに知能を持たせることを目標とし、画像認識や言語処理、ディープラーニングの基本について学ぶ。	2年次・後期	30	1		○		○		○		
	○		IoT入門	様々な分野で用いられ、私たちの生活を便利にしてくれているIoT(モノのインターネット)技術について学ぶ。	2年次・後期	30	1		○		○			○	
合計				9科目	360単位時間（　12単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は、1800時間以上かつ60単位以上を満たすものとする。 また、必修選択科目は指定されている科目数を必ず履修する必要がある。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

（別紙様式4）　　東日本デザイン＆コンピュータ専門学校　コンピュータ学科　情報システムコース

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和 8年 6月 1日

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
東日本デザイン＆コンピュータ専門学校	昭和61年3月10日	小林　一英	〒379-2184 群馬県前橋市小屋原町1098-1 （電話）027-267-1171
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人山崎学園	昭和42年3月31日	遠山　巍	〒379-2184 群馬県前橋市小屋原町1145-1 （電話）027-267-7945

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
商業実務	商業実務専門課程	コンピュータ学科（情報システムコース）	平成17年文部科学大臣告示第177号	なし

学科の目的	学校教育法に基づき、教養教育と専門教育が調和した幅広い教育を行い、情報通信技術分野に関する知識技術を習得させ、もって産業界並びに社会公共に貢献できる人材を育成することを目的とする。
認定年月日	平成26年3月31日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	62		62			単位

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160人	29人（61人の内数）	0人	5人	10人	15人

学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価	■成績表:　有 ■成績評価の基準・方法 学期末試験、実習の成果、出席状況等を総合的に勘案
長期休み	■学年始め:4月1日～4月8日 ■夏　季:7月25日～8月23日 ■冬　季:12月24日～1月7日 ■学 年 末:3月7日～3月31日	卒業・進級条件	校長が成績評価の基準に従い認定する。
学修支援等	■クラス担任制:　有 ■個別相談・指導等の対応 担任及び学生指導委員による対応	課外活動	■課外活動の種類 学生会組織、部愛好会、インターンシップ等 ■サークル活動:　有

就職等の状況※2

■主な就職先、業界等（令和7年度卒業生）
富士ソフト株式会社、サンデン・リテールシステム株式会社、リード株式会社、エクシオ・デジタルソリューションズ株式会社ECIカンパニー　等

■就職指導内容
担任および就職部による面接練習等

■卒業者数	17	人
■就職希望者数	17	人
■就職者数	17	人
■就職率	100.0	%
■卒業者に占める就職者の割合	100.0	%

■その他

（令和　7 年度卒業者に関する
令和8年5月1日 時点の情報）

主な学修成果（資格・検定等）※3

■国家資格・検定/その他・民間検定等
（令和7年度卒業者に関する令和8年5月1日時点の情報）

資格・検定名	種	受験者数	合格者数
日商PC検定	③	42	29
CG-ARTS　CG・MM検定	③	24	15
経済産業省情報処理技術者試験	③	23	10

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。
①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
③その他（民間検定等）

■自由記述欄

中途退学の現状

■中途退学者（学科全体）　6 名　■中退率　7.3 %
令和7年4月1日時点において、在学者82名（令和7年4月1日入学者を含む）
令和8年3月31日時点において、在学者76名（令和8年3月31日卒業者を含む）
■中途退学の主な理由
病気療養、進路変更、経済的理由　等

■中退防止・中退者支援のための取組
担任及び退学防止委員会による対応

経済的支援制度

■学校独自の奨学金・授業料等減免制度　：　有
特待制度

■専門実践教育訓練給付　：　無

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価　：　無
※有の場合、例えば以下について任意記載
（評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）

当該学科のホームページURL

http://www.yamasaki.ac.jp/design-com/

（留意事項）
1. 公表年月日（※1）
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況（※2）
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。
③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。
※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。
（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果（※3）
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

本校の目的に応じて、情報通信業界の要請を十分に生かしつつ職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するため、教育課程の編成において企業等が委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むものとする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

細則で「教育課程編成委員会」を学内に設置することを定め、学校組織図に明記し、位置づけを明確にいている。教育課程編成委員会は、意見を教務部に提出し、教務部において教育課程を編成し、校長及び理事会の承認をへて最終決定している。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和 8年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
小林　一英	東日本デザイン＆コンピュータ専門学校　校長	令和 8年4月1日　～ 令和 9年3月31日（1年）	
間仁田　篤	東日本デザイン＆コンピュータ専門学校　教務部長（コンピュータ学科）	〃	
前田　利雄	一般社団法人　群馬県情報サービス産業協会　理事	〃	①
山﨑　雅也	フリーランス（自営）	〃	③
桑原　章人	東日本デザイン＆コンピュータ専門学校　学科長（コンピュータ学科）	〃	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（開催日時）
年間開催数：2回（毎年5月、11月）

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「教育課程編成委員会」において各委員より出された意見を取り入れ、教務部において具体的な科目設定、授業内容の検討を行いカリキュラムを作成する。例えば、最先端のIoT技術について企業内で行われている取り組みをネットワークやプログラミングの授業に反映させている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等の要請を踏まえ、専攻分野に関わる職業において即戦力とし活躍でき人材育成目指す。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

専攻分野に関わる企業等において豊富な実務経験を有し、業界の動向に知見を有する講師を選任し、実習・演習等の内容及び学修成果の達成度評価について打ち合わせを行い担当教員と連携しながら授業運営を行う。

（3）具体的な連携の例

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
Web技術Ⅰ・Ⅱ	効率的かつ効果的なWebページの制作を行う ・HTMLとCSS　・JavaScript ・PHPプログラミング　・XML	フジコー株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

細則ならびに研修規程に基づき、教育効果の向上のため、企業等が開催する研修会等へ参加をし、知識、技術、技能などの修得に勤め、担当業務等の遂行に当たり質の高い授業運営ができるようにしている。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

全教職員を対象に、関連業界団体・企業が主催する実務に関する知識・技術・技能についての下記講習会等に参加し専攻分野毎に実務研修を行った。
・令和7年7月24日　CEDEC主催「アストロボット」テンポよく遊べる3Dレベルデザイン」
・令和7年8月 8日　株式会社インフォテック・サーブ主催「専門学校教員向け 技術向上研修(システム開発演習)」
・令和7年8月21日　CEDEC主催「ゲーム品質向上のためのユーザーレビューとポイント」

②指導力の修得・向上のための研修等

全教職員を対象に、外部実務家講師による生徒に対する指導力等の修得・向上のための研修会
・令和8年3月19日　講師：本校学校長　小林一英　対象：全教職員　内容：「カスタマーハラスメントの対応について」

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

全教職員を対象に、関連業界団体・企業が主催する実務に関する知識・技術・技能についての研修会等に参加し専攻分野毎に実務研修を行う。

②指導力の修得・向上のための研修等

全教職員を対象に、指導力の修得・向上を目指し各方面の有識者を講師として招聘し講習会を開催する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

教育効果の向上のため、企業等が開催する研修会等へ参加をし、知識、技術、技能などの修得に勤め、担当業務等の遂行に当たり質の高い授業運営ができるようにする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	理念・目的・育成人材像・学校の特色等
（2）学校運営	事業計画・人事や賃金での処遇に関する制度等
（3）教育活動	教育目標・育成人材像と業界ニーズ・資格取得体制等
（4）学修成果	就職率の向上・卒業生在校生の社会的活躍と評価等
（5）学生支援	就職指導に関する体制・課外活動に対する支援体制等
（6）教育環境	施設設備の整備状況等
（7）学生の受入れ募集	適正な学生募集活動・教育成果の適正な報告
（8）財務	中長期における財務基盤の安定・財務に関する適正な会計監査
（9）法令等の遵守	法令、設置基準等の遵守と運営・個人情報の保護に関する対策
（10）社会貢献・地域貢献	
（11）国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

「教員研修を充実し、教職員のモチベーション向上をさらに推進してほしい」との意見があり、教職員研修委員会において、教職員全員参加の集合研修や分野別に各教職員の実務研修の充実を図っている。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和 8年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
黒石　和秀	東日本デザイン＆コンピュータ専門学校（ビジネス2校）父母の会会長	令和 8年4月1日　～ 令和 9年3月31日（1年）	PTA
前田　利雄	一般社団法人　群馬県情報サービス産業協会理事	〃	企業委員
廣田 毅文	有限会社　富士メディアサービス　代表取締役	〃	企業委員
根岸 誠	フジコー株式会社　代表取締役	〃	企業委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ　・　広報誌等の刊行物）　・　令和 8年7月末
URL:http://www.yamasaki.ac.jp/design-com/14.html

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

社会に対する説明責任を果たし、社会全体からの信頼および企業等との連携や協力を得る。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	校長名・所在地・連絡先等・特徴・沿革、教育目標・経営方針・教育指導計画・諸活動に関する計画
（2）各学科等の教育	入学者選抜の方針・方法、定員数・入学者数・在学者数・カリキュラム等進級・卒業の要件等、取得を目指す資格、合格を目指す資格等、・資格取得、検定試験合格等の実績、卒業者数、卒業後の進路
（3）教職員	教職員数、教職員の組織・専門性
（4）キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、実習・実技への取り組み状況、就職支援への取り組み状況
（5）様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況、課外活動（サークル活動、学生会活動）等の状況
（6）学生の生活支援	学生支援への取り組み状況
（7）学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱、活用できる就学支援措置の内容
（8）学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書など
（9）学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

URL:http://www.yamasaki.ac.jp/design-com/14.html

授業科目等の概要

（商業実務専門課程コンピュータ学科情報システムコース）令和 8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネスマナー	顧客満足とコミュニケーション能力を向上させる手段を学ぶ。ビジネス文書、統計資料の作成や、仕事を進める上で知っておくとよい法律等も学ぶ。	1年次・前期	30	1		○		○			○	
		○	コースミーティング	LHR的な位置づけの授業科目。時期に応じて下記を実施 ・就職活動　・各種検定試験対策 ・各種コンペ対策　・学生生活指導	1年次・前後期 2年次・前後期	120	4		○		○		○		
		○	キャリアデザイン	就職活動に必要な知識を学び、コースミーティングと連動して準備を行う、 ・筆記適性試験対策　等	1年次・後期	30	1		○		○		○		
○			Java	Java言語を基礎から学び、オブジェクト指向やネットワークプログラミングなど、Java言語プログラミングの理解・応用を目指す。	1年次・後期 2年次・前期	120	4		○		○		○		
○			Visual Basic	プログラミング言語導入の科目 ・変数について　・制御構造について ・関数について　・ファイル・DB操作	1年次・前後期	120	4		○		○		○		
○			アルゴリズム	アルゴリズム(整列，検索，等)とデータ構造(リスト，ツリー，等)を学び、効率的なプログラミングの考え方を養う。	1年次・前後期	120	4		○		○		○		
○			コンピュータシステム	コンピュータの仕組みや基礎理論を学び、経済産業省情報処理技術者試験(ITパスポート、基本情報技術者)の合格を目指す	1年次・前期	60	2		○		○		○		
○			情報と経営	コンピュータに関わる法律や戦略、マネジメント等を学び、済産業省情報処理技術者試験(ITパスポート、基本情報技術者)の合格を目指す	1年次・前期	60	2		○		○			○	
○			Excel	Microsoft Excelの基本的な操作方法から始め、実践的な表計算につなげる。	1年次・前期	30	1		○		○			○	
合計				9科目	690単位時間（　23単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は、62単位以上を満たすものとする。 また、必修選択科目は指定されている科目数を必ず履修する必要がある。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（商業実務専門課程コンピュータ学科情報システムコース）令和 8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			セキュリティ	コンピューターネットワークにおけるセキュリティについての基礎知識を学ぶ。またその際に必要な考え方を養う。	1年次・前期	30	1		○		○			○	
○			データベース	Oracle社が実施しているOracle Master取得を目指す対策授業。	1年次・前後期	60	2		○		○		○		
○			一般常識	入社試験において出題される可能性が高い「SPI」試験問題を解けるようになることが目標	1年次・前後期	60	2		○		○			○	
	○		検定試験対策	各種検定試験の対策を行う。試験時期にあわせ様々な検定に対応する。問題研究、答練を行う。	2年次・前後期	120	4		○		○		○		
	○		Windows入門	Windowsの基本操作を学ぶ ・Winsdowsストア　・ファイル管理 ・メール送受信　・セキュリティ	1年次・前期	30	1		○		○			○	
○			Web技術	効率的かつ効果的なWebページの制作を行う ・HTMLとCSS　・JavaScript ・PHPプログラミング　・XML	1年次・後期 2年次・前後期	180	6		○		○			○	○
○			情報処理技術者試験対策	経済産業省情報処理技術者試験(ITパスポート、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験)合格を目指す。問題研究、答練を行う。	1年次・後期	60	2		○		○		○		
○			Excel試験対策	日商PC検定(表計算)合格に向けた対策授業。	1年次・後期	30	1		○		○			○	
○			Word	Microsoft Wordの基本的な操作方法から始め、実践的な文書作成につなげる。	1年次・後期	30	1		○		○			○	
合計				9科目	600単位時間（　20単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は、62単位以上を満たすものとする。	１学年の学期区分	2期
また、必修選択科目は指定されている科目数を必ず履修する必要がある。	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（商業実務専門課程コンピュータ学科情報システムコース）令和 8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Windows Server	サーバー構築／運営／保守の基礎を学ぶ ・ユーザー管理　・アクセス権 ・ファイル共有　・CUIによる操作	1年次・後期	30	1		○		○		○		
○			モバイルプログラミング	パーソナルコンピューター上でのプログラミングとの違いを意識しつつ、スマートフォン／タブレット向けのプログラミングを行う。	2年次・前期	60	2		○		○		○		
○			組み込みプログラミング	C言語を用いてPICマイコンの制御を行う。 C言語を基礎から学び、マイコンボード上の各種I/O装置の制御を行う。	2年次・前期	60	2		○		○			○	
○			チーム開発	Gitの操作を身につけ、Gitの活用術を身につけます。	2年次・前期	30	1		○		○		○		
○			PowerPoint	Microsoft PowerPointの基本的な操作方法から始め、効果的なプレゼンテーションにつなげる。	2年次・前期	30	1		○		○			○	
○			Linux	より実践的なサーバー構築／運営／保守を学ぶ ・メールサーバー　・Webサーバー ・DNSサーバー　・DHCPサーバー	2年次・前期	60	2		○		○		○		
○			Word試験対策	日商PC検定（文書作成）合格に向けた対策授業。	2年次・前期	30	1		○		○			○	
○			ネットワーク	コンピューターネットワークの基礎知識から実践的操作までを幅広く学ぶ。また、操作や設定を実際に行い、理解を深める。	2年次・前期	30	1		○		○			○	
○			卒業研究	各自でテーマを選定し、実務でのプロジェクトの流れを意識しながら、プログラム開発やシステム構築を行う。また、その成果を発表する。	2年次・後期	180	6		○		○		○		
合計				9科目	540単位時間（　18単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は、62単位以上を満たすものとする。 また、必修選択科目は指定されている科目数を必ず履修する必要がある。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（商業実務専門課程コンピュータ学科情報システムコース）令和 8年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Python	変数・データ型・条件分岐・繰り返しなど基礎文法を学び、関数によるコード整理、簡単なアプリ作成までを通して実践的なプログラミング力を身につける。	2年次・前期	60	2		○		○			○	
○			システム設計演習	システムの要件分析から設計、実装までの一連のプロセスを実践的に学び、チームでの協働や問題解決能力を養う。	2年次・前期	30	1		○		○		○		
○			Access	システムの要件分析から設計、実装までの一連のプロセスを実践的に学び、チームでの協働や問題解決能力を養う。	2年次・後期	60	2		○		○			○	
○			AI基礎	コンピュータに知能を持たせることを目標とし、画像認識や言語処理、ディープラーニングの基本について学ぶ。	2年次・後期	30	1		○		○		○		
○			クラウドコンピューティング	代表的なクラウドコンピューティングサービスであるAWSについて広く学ぶ。 仮想サーバーやストレージ、Webサーバー、データベース等幅広く取り扱う。	2年次・後期	30	1		○		○		○		
○			ネットワーク演習	コンピューターネットワークの基礎知識から実践的操作までを幅広く学ぶ。また、操作や設定を実際に行い、理解を深める。	2年次・後期	30	1		○		○		○		
○			セキュリティ演習	外部からのセキュリティ攻撃に対応し内部ネットワークのセキュリティを確保する。	2年次・後期	30	1		○		○	○			
	○		IoT入門	様々な分野で用いられ、私たちの生活を便利にしてくれているIoT(モノのインターネット)技術について学ぶ。	2年次・後期	30	1		○		○		○		
合計				6科目	210単位時間（　7単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件は、62単位以上を満たすものとする。	１学年の学期区分	2期
また、必修選択科目は指定されている科目数を必ず履修する必要がある。	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。